

## 取扱説明書

# JI-1113M

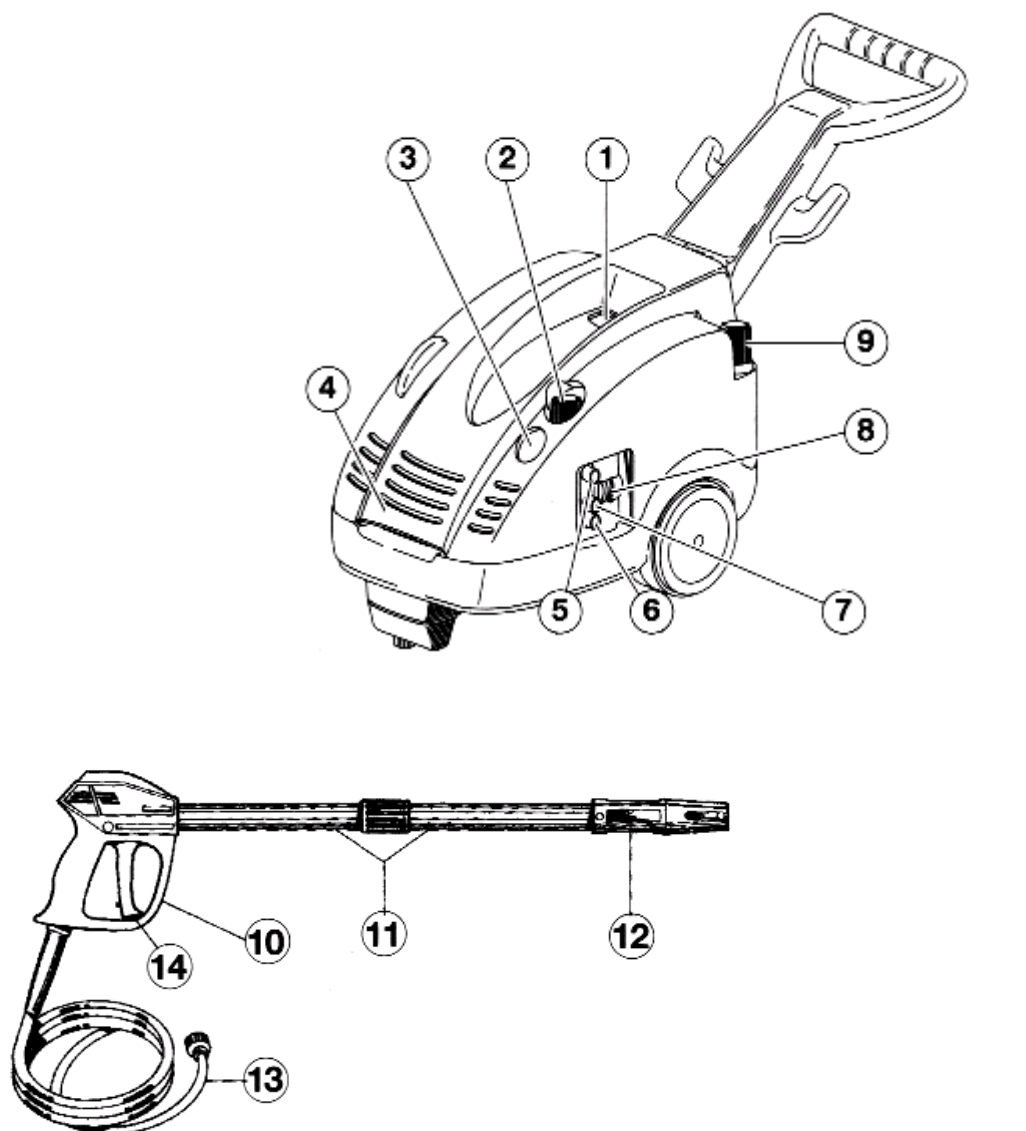


このたびは本機をお買い上げ賜り厚くお礼申し上げます。  
いつもでも安全にお使いくださるよう、この取扱説明書はお手元に大切に保管して下さい。

この取扱説明書をよく読んでいただき十分ご理解の上でお使い下さい。  
高圧洗浄機を安全に利用する為に重要な情報、説明が書かれているので、大切に保管して下さい。

## 1. 名称

当機は以下の部品で構成されています。



- |              |                  |
|--------------|------------------|
| ① 電源スイッチ     | ② 圧力調整ノブ         |
| ③ 圧力計        | ④ オイル確認窓         |
| ⑤ 吐出口        | ⑥ 吸水口            |
| ⑦ 外部用ケミカル吸入口 | ⑧ ケミカル量調整レバー     |
| ⑨ ケミカル注入口    | ⑩ ガン             |
| ⑪ ランス (分割式)  | ⑫ ノズル (ケミカルモード付) |
| ⑬ 高圧ホース      | ⑭ トリガー安全ロック      |

## 2. 仕様

型番	JI-1113M	
総水量 (L/min)	[50Hz]13L/min	[60Hz]13L/min
最大使用圧力	[50Hz]11Mpa	[60Hz]14Mpa
単相モーターパワー	三相 200V 4P 全閉外扇型 3.4kW	
定格電流	12A	
モーター保護	過電流保護装置付	
電源コード	5m(プラグは付属しません)	
モーター保護グレード	IPX5	
騒音値 (dBA)	72~77	
最大給水温	60℃	
最大吸引深度 (m)	1	
ポンプ	W955 INTERPUMP	
ポンプオイル量	0.5 L	
重量 (kg)	42	
寸法 (mm)	860L×400W×875H	

## 3. 安全のために

この取扱説明書に書かれている範囲でご利用下さい。弊社はその他の利用で本機のダメージを起こした場合一切責任を持ちません。

本機は圧力ジェット水を利用して、洗い流しや表面異物の吹き飛ばしなどの洗浄に使われます。

### 警告

- 噴出口に指を当てたり、のぞき込んだり絶対にしないで下さい。
- 人体に向けて絶対に、洗浄ガンの引金を引かないで下さい。
- 洗浄ホースを強く引っ張ったり無理に曲げたりしないで下さい。又、外観に深いキズが付いていたり、折れ曲がったり潰れたりしているホースは破裂して水が噴出する恐れがあり危険です。
- 引火性、爆発性ガスのある場所では使用しないで下さい。火災や爆発事故につながり危険です。

### 注意

- ノズル（噴射口）を、絶対に人や動物に向けないで下さい。
- 作業中は、噴射水が作業者にかからないよう十分注意して下さい。
- 装置から水漏れが発生した場合は、その部分には絶対に触れないで下さい。直ちに装置を止め修理して下さい。
- 噴射作業中は、ガン・ランスをしっかりと支えて、半の圧力で跳ばされないよう注意して下さい。
- 高圧ホースは、破裂の可能性がありますので、作業中にホースが体に密着しないよう注意して下さい。
- 高圧ホースは、外皮が傷んでいたり折れ曲がったりした状態で使用すると、破裂の危険性が高いので、新しいホースに交換して下さい。

- 使用後（停止後）もホース内に残圧が残っています。ガンの引金を引いてホース内の残圧を逃がして下さい。
- 接続金具にサビ、破損等がないか確認して下さい。
- 安定した足場で使用して下さい。
- 火災防止のために、使用中は建物及びその他の施設から**1m**以上離して下さい。
- お子様など関係者以外は近づけないで下さい。誤った操作やいたずらにより思わぬ事故を招きます。
- 機械は水平な所へ設置して下さい。急な傾斜地での運転は、オイルが最高油面でも最適な潤滑ができず、焼付きトラブルを起こしかねません。
- 夏場、直射日光の当たる場所に設置して長時間運転すると、モーターが止まる事があります。日陰に設置して下さい。
- 運転中、直後のポンプ、モーター付近は高温になります。ヤケドを負う危険があるので、手を触れないで下さい。
- 凍結が考えられる場合は使用後、水抜きを行なって下さい。始動前には凍結していないかどうか確認し万一凍結している場合は凍結するまで暖かい所へ置いて自然解凍を行なって下さい。
- ポンプの空回転はしないで下さい。パッキンが著しく摩耗します。
- 強い酸、アルカリの使用は避けて下さい。「**PH4～10**」の範囲内で使用して下さい。
- 研磨剂的な作用をする液体の使用はポンプの寿命を著しく短くしますのでご注意ください。
- ポンプ使用限界水温は**60℃**までです。それ以上高い温度の液体を使用しますと、ポンプの早期損傷につながります。
- 漏電等による火災、また感電事故防止のため。必ずアースを接続して下さい。
- 三相交流**200V**以外の電源は使用できません。
- 回転中、回転部に手を触れたり、物を差し込んだりしないで下さい。また、カバーをはずして運転しないで下さい。
- 作業開始時や作業中に異音を感じたら、直ちに作業を中止し、メーカーに問い合わせるなどして、安全が確認できるまで運転を見合わせて下さい。機械の異常損傷は作業事故につながる可能性があるため、十分に注意して下さい。

#### 4. ご使用になる前に

開梱にあたり、本機は破損などあるかどうかご確認してください。もし欠陥、破損があった場合は本機の使用を止め、販売店にご相談ください。

ご使用になる前に、下記の注意事項をお守りください。

##### 1. ポンプオイルのレベル及び汚れをチェックして下さい。

オイルの入っていない状態で運転すると、クランク部で焼き付けを起こすので、始動前にレベルゲージでオイル量をチェックして下さい。不足している場合は、ポンプ上部の給油口よりオイルを補給して下さい。オイルの汚れがひどい場合は、オイル交換をお願いします。オイルは約 **0.5L** 入ります。

##### 2. 清水（水道水）を使用して下さい。

機密性の高い高圧プランジャーポンプは、砂泥、金属粉等には非常に弱いポンプです。

これらスラッジ分の混入した水を使用すると、ポンプ内のバルブ、パッキン、プランジャー等を早期に傷めますので、清水（水道水）を使用して下さい。

3. 水漏れ、オイル漏れのチェックをして下さい。

水漏れ、オイル漏れを起こしたまま使用すると、機械自体を傷つけ、高圧水の噴射など人体が危険にさらされる恐れがあります。使用前に水漏れ、オイル漏れがないか確認して下さい。

4. ポンプ内の残水の凍結がないかチェックして下さい。

ポンプ内が凍結した状態でポンプを起動すると、氷の破片によりポンプ内部が破損しますので、凍結の心配がある場合は、解凍を確認してから作業して下さい。

5. 純正品以外の部品は、原則として使用しないで下さい。

ガン、ホース、ノズル等は、ポンプ容量に適合した純正部品を使用して下さい。純正以外の部品を使用する場合は、適合性を十分確認してから使用して下さい。

6. 圧力は規定値又は、それ以下で使用して下さい。

アンローダーの調整や標準よりも小さいノズルを使用した場合は、異常高圧が発生していないかを確認して下さい。異常高圧が発生した状態で使用すると、機械が破損することがありますので噴射圧力を規定値まで下げてご使用下さい。

7. ポンプの空運転に注意して下さい。

水がポンプに供給されない状態で、連続1分以上の空運転をすると、ピストン・パッキン部が高熱になり、故障する恐れがあるので、注意して下さい。

8. 使用する液体について注意して下さい。

ポンプの使用液体について、下記のことにご注意下さい。

① PH4～10の範囲内で使用下さい。範囲外の酸、アルカリを使用すると、ポンプ、ホースを損傷させます。

② 研磨的な作用のある液体を使用すると、ポンプ、ホースを損傷させます。

③ ポンプの許容温度範囲は0～60℃になっています。この範囲を越える液体を使用すると、ポンプ内のパッキンの早期摩耗やピストンのクラック発生の原因になります。

9. 指定された電源で使用して下さい。

指定の電圧（V）、周波数（Hz）に接続して下さい。それ以外の電源で使用すると機械の破損、またそれに伴い火災等の事故につながる危険性があるので、絶対に接続しないで下さい。また、電源元には必ず漏電ブレーカーを設置し、しっかりと接続して下さい。

## 10. 機械の設置に注意して下さい。

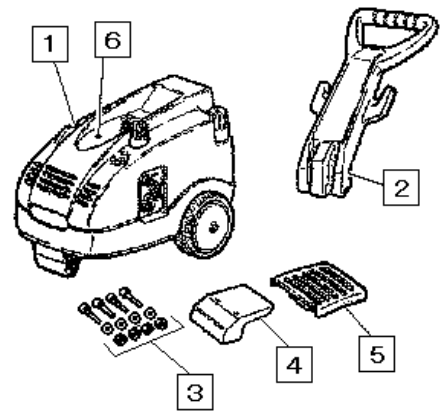
下記の事柄に注意して機械を設置して下さい。

- ① 狭いところ、壁、塀等の近くで機械を運転すると、熱効率が悪くなり本機を損傷させるので、障害物がない換気のよいところで運転して下さい。
- ② 急な傾斜地で運転すると、オイルが十分な潤滑をできず、ポンプを損傷させるので、水平で、安定した場所で運転して下さい。
- ③ 発電機、排熱ダクト等の排気側に本機を置くと、本機を損傷させるので、涼しい場所に置いて下さい。
- ④ 雨や雪、跳ね返った噴射水や霧等がかからないように設置して下さい。漏電の原因になりますので注意して下さい。
- ⑤ 湿気が多い場所で使用すると、結露により漏電や腐食の原因になるので、湿気の少ない場所で使用下さい。

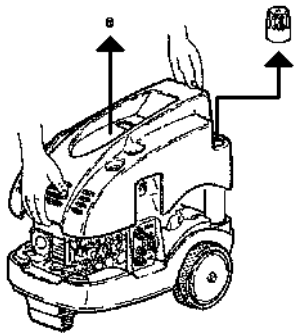
## 5. 組み立ての仕方

1. 本体と付属品を確認して下さい。

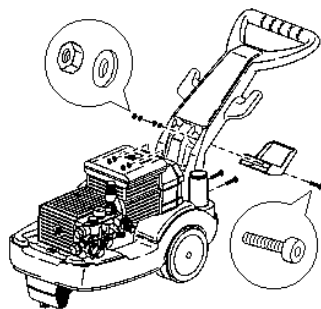
- ① 本体
- ② ハンドル
- ③ ハンドル固定ボルト  
(ボルト、ワッシャー、ナット各4個)
- ④ ホースフック
- ⑤ ファンカバー
- ⑥ カバー押さえノブ



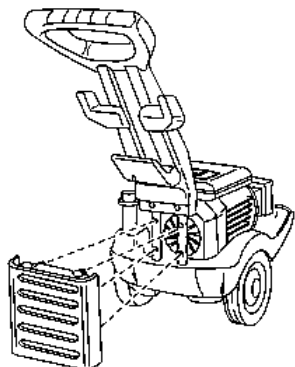
2. ケミカル注入口キャップとカバー押さえノブを外し、本体カバーを取って下さい。



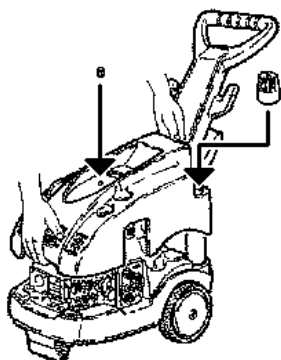
3. 下記のようにハンドル、ホースフックに固定ボルトを取り付けて下さい。



4. ファンカバーをはめ込んで下さい。



5. 本体カバーをかぶせ、カバー押さえノブ、ケミカル注口キャップを取り付けて下さい。



## 6. 付属品の取り付け

1. 吸水ホースを水道の蛇口本体の吸水口に取り付けて下さい。

吸水ホースの取り付け不良は、ポンプのエアかみを引き起こし、異状振動、圧力低下の原因になるので、しっかりとねじ込んで下さい。

2. ランス、ガン、高圧ホースを接続して下さい。その後、高圧ホースを本体吐出口にねじ込んで下さい。

3. 機械本体、元ブレーカーなどのスイッチが入っていないのを確認して、コードを元ブレーカーに接続してください。

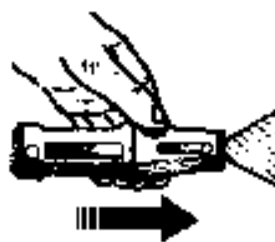
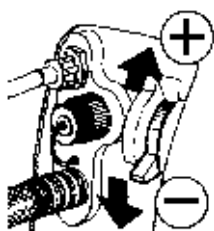
※ 本機は 3相200V専用なので、これ以外の電源には接続しないで下さい。

※ 本機の定格電流は12Aです。これより容量の大きな電源に接続して下さい。容量の小さな電源で使用すると、ブレーカー上がりや、部品の破損の原因となります。

※ 延長コードを使用する場合は、太さ3.5sq 以上、長さ20m 以下のものをご使用下さい。これよりも細いもの、長いものを使用すると、モーター、スイッチ等の焼損につながります。

4. ケミカル量調整レバーが“-”になっているのを確認し、また、ノズルが高圧モードを確認してから水道の蛇口を開きます。(下図参照)

※ケミカル調整レバーが“+”または、ノズルが低圧モードになっていますと、圧力不足、圧力不安定等の原因となります。



## 7. 運転方法

①電源スイッチを ON にし、ポンプ内のエアを抜くためにガンのトリガーを引きっ放しにして下さい。

※ エア抜きが完了しますとノズルから高圧水が勢いよく噴射されます。この時、強い反動がありますのでガン・ランスを両手でしっかりと持って下さい。

※ 水が噴射されない状態で、連続 1 分以上の空運転はしないで下さい。パッキンやプランジャーの破損につながります。

②ガンを引くと、ノズルから高圧水が噴射されます。周囲の安全を確認しながら作業を開始して下さい。

③ 圧力調整は本体の圧力調整ノブで行えます。圧力はガンを開いた時のみ表示されるので、少しまわしたらガンを開き、圧力を確認しながらゆっくりと行って下さい。

※規定圧力以上には絶対にしないでください。人身事故、機械の破損につながります。

④ガンを閉じてから 20 秒位経つとオートストップ機能が働き、モーターが停止します。ガンを開くと再びモーターが回ります。

ガン先から水漏れがある状態ではアンローダーが誤作動を起こし、オートストップは働きません。オートストップが働かない状態では、噴射を止めたまま連続で1分以上運転するとパッキン等が異常磨耗します。

## 8. 運手終了

① 給水ホースを蛇口から外す、または水タンクから引き上げて、運転 状態にしてガンを引き、給水ホース及びポンプ内の水を抜いて下さい。この時、2 分以上の空運転は避けて下さい。パッキンの以上磨耗につながる可能性があります。

②電源スイッチを OFF にして下さい。

③ガンの引き金を引いて、ホース内に残った残圧を逃がして下さい。残圧が残ったままにしておくと、不用意に引き金を引いて残圧による被害を起こしかねませんので注意して下さい。

④事故防止のため、電源コードを取り外す、又は電源元のブレーカー を切るなどして下さい。

※電源コードを取り外す際は、必ず元ブレーカーが OFF になっていることを確認してからにして下さい。

## 9. ケミカルインジェクターの使い方

本機は内蔵タンク及び外部吸入口によりケミカル剤（薬剤）を混ぜて噴射することができます。

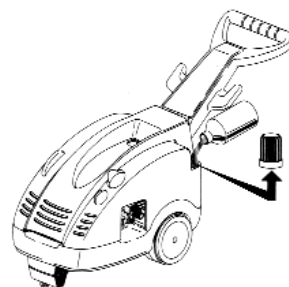
※使用できる薬剤は PH4～10 のものに限られます。それ以外の酸，アルカリを使用すると、ポンプ、ホースを損傷させます。

※粉末のものや高粘度のものは吸入できません。

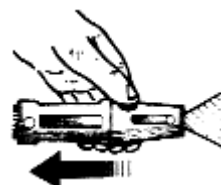
※低圧モードでのみ使用可能です。

○ 内蔵タンクから吸入する場合

①ケミカル注入口（名称⑨）よりケミカル剤を注入します。  
（MAX 8L）

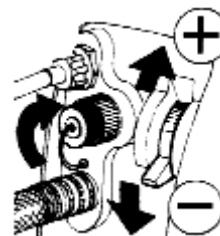


②ランス先端部のノズルを締め、低圧モードにします。



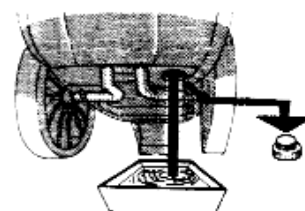
③ケミカル量調整レバーの“+”、“-”にて吸入量の調整ができます。

※高圧モードでの使用時には必ず“-”にして下さい。



④ガンを引くとケミカル剤の混じった水が噴射されます。

⑤ケミカル剤を抜く時は、本体下部のドレンプラグを外して下さい。



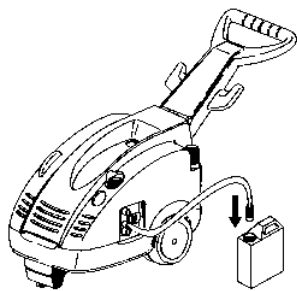
○外部から吸入する場合

①外部用ケミカル吸入口（名称⑦）のキャップを外します。



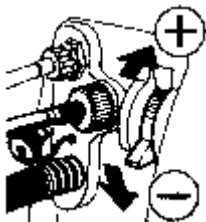
②チューブを外部用ケミカル吸入口に差し込み、反対側をケミカル剤の入った容器に入れます。

※ポンプ内にゴミが混入しないようにチューブ先端にフィルターを取り付けるようにして下さい。



③ケミカル量調整レバーの“+”，“-”にて吸入量の調整ができます

※高圧モードでの使用時には必ず“-”にしておいて下さい。



④ガンを引くとケミカル剤の混じった水が噴射されます。

⑤ケミカルモードを終了する時は吸入口のキャップをしっかりとめ込むようにして下さい。しっかりとまっていない状態で運転するとポンプがエアを吸い、圧力低下や圧力不安定等の原因になります。

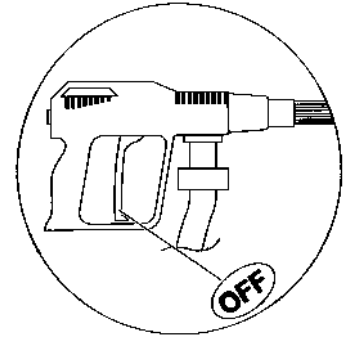


## 10. FA ノズルの使い方

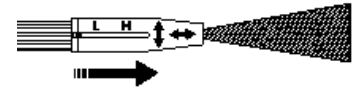
FA ノズルは、先端を伸縮、回転させることにより、圧力、噴射パターンを変化させることが可能です。

①一旦、ガンを閉じます。

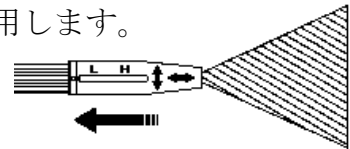
※噴射中のパターン変更は絶対に止めください。高圧水が手や指にかかり大変危険です。



②伸ばす：高圧モードになります。通常の洗浄作業ではこの状態で使用します。



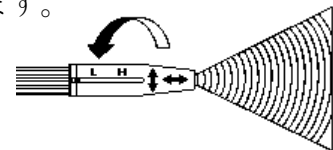
③縮める：低圧モードになります。ケミカル剤吸入時に使用します。



④右回し：直噴になります。強力な圧力が一点に集中します。



⑤左回し：広角になります。広範囲を能率よく洗浄できます。



## 11. 使用後の注意点

### 1. 寒冷期の凍結防止

寒冷期にポンプ内に水を入れたままにしておくと、凍結によりポンプの破損につながりますので、使用後に不凍液を機械内部に循環させておくとトラブルの発生がありません。

(不凍液量：約 6L)

万一、凍結の可能性がある場合は機械を暖かい場所に置く、ポンプヘッドにお湯をかけるなどして解凍して下さい。解凍するまでは絶対に運転しないで下さい。凍結したまま運転しますと故障に直結すると同時に、異常圧力等により大変危険ですので絶対にしないで下さい。

### 2. 不凍液の循環方法

吸水ホースを適度に希釈された不凍液の中に入れて状態で機械を作動させて下さい。不凍液がポンプ内に吸入されます。ポンプ内（必要に応じてホース内）に液が行き渡ったら機械を止めて下さい。

### 3. 保管場所の注意

本機は防水型ではありませんので、保管の際は雨水が本機にかからないように注意して下さい。スイッチ等に水がかかると、漏電等の故障につながります。

また、湿気が多い場所に保管しますと、結露により錆びや腐食、漏電の原因になりますのでご注意ください。

### 4. ケミカル使用後の注意

ケミカル使用后、そのまま保管しますとポンプ内が腐食しやすくなります。使用後に水のみで噴射し（ノズルからケミカル剤が出なくなるまで）、ポンプ内を洗浄しておいて下さい。また、長期間使用しない場合は、ケミカル剤を全て抜いて下さい。

## 12. 保守点検

### 1. アンローダーの調整について

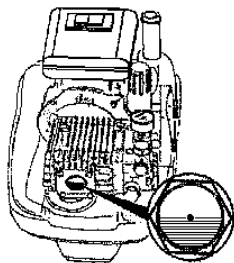
アンローダーで圧力を上げる方向に変更する場合は、調整ナットの締めすぎは、装置の破損につながりますので十分注意して下さい。

○調整方法 圧力調整ノブを取り外します。ガンを噴射状態にして、圧力を確認しながら中心のネジを徐々に締めていき、製品の所定圧力になったところでストッパーを固定し、それ以上締めるのをやめ圧力が上がらないようにして下さい。  
必要以上に締め上げても、噴射圧力は上がりません。逆に、ガンをストップしたときにポンプ内部が異常に高圧となり装置を破損させることとなりますので十分に注意して下さい。

### 2. オイル交換

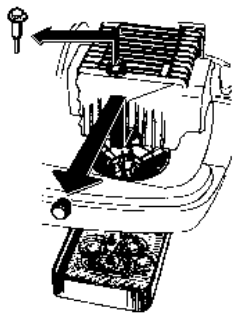
ポンプオイルは、使用時間で最初 50 時間後に全部交換して下さい。

2 回目以降は、100 時間毎に全部交換して下さい。



#### [ポンプオイル交換方法]

① 本体の下に受け皿を用意し、ポンプ後部のオイルドレンプラグを外して下さい。ポンプ上部のキャップを外しておくと抜けやすくなります。



② 完全に抜け切ったらプラグをはめて下さい。

③ ポンプ上部のオイル注入口から新しいオイルを入れて下さい。オイル量はポンプ側部のオイルゲージの中心位置に合わせて下さい。

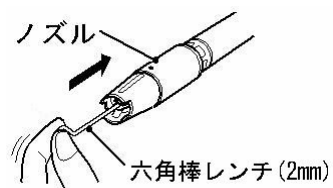
### 3. ノズルの点検

※ノズルチップが目詰まりしますと、圧力が全く上がらなくなります。

①定期的にノズルチップを外し、掃除を行なって下さい。

②ノズルチップは穴が六角になっていますので、ランスの先端から六角棒レンチ(2mm)を差し込み左に回せば外せます。

〈ノズルチップの外し方〉



### 13. トラブルシューティング

1. 現象：モーターは正常に回転し、噴射しているが圧力が所定値まで上がらない。

①アンローダーの圧力調整不良。

→運転の状態にして、圧力調整ネジを回し圧力を調整して下さい。

②アンローダーのバルブ、シートの磨耗。

→部品交換

③吸水系統からのエア吸い込みによる不良（ポンプに水が十分供給されない。）

→給水ホースの接続を確認し、締め直して下さい。

→接続部のパッキンの交換

④フィルターの目詰まり

→本体給水口のフィルターにゴミが付着していないか確認、洗浄して下さい。

→自吸式の場合は給水ホース先端のフィルターにゴミが付着していないか確認、洗浄してください。

⑤ノズル口径の異常

→磨耗により口径が大きくなっている恐れがあります。部品交換して下さい。

→純正品以外の口径の大きいノズルが付いていないか確認して下さい。

⑥ポンプ内部の不良

→ポンプから高圧ホースを外し、ポンプを回転させた状態で、ポンプの吸水口に水道ホースを押しつけ強制給水する。

→上記で取れない場合はポンプヘッドのバルブ部の六角を外し、バルブにゴミが付着していないか調べ、ポンプ内に残っているゴミ分を水道水で洗い流して下さい。

→プランジャー部のパッキン、バルブ磨耗のため交換して下さい。

#### 2. 現象

モーターは正常に回転しているが、圧力がほとんど上がらない。

①ノズルが低圧モードになっている

→§5-5「FA ノズルの使い方」を参照して下さい。

②ノズルの目詰まり

→ノズルを外して、エアーブロー又は細い針金などでゴミを除去して下さい。ノズル装着の前に機械を動かして捨吹きを行って下さい。

③アンローダーのゴミ侵入による不良

→バルブシート周辺にゴミが掛かっている可能性があるので、分解図を見ながら分解洗浄して下さい。

④吸水系統からのエア吸い込みによる不良（ポンプに水が十分供給されない。）

→給水ホースの接続を確認し、締め直して下さい。

→接続部のパッキンの交換

⑤ポンプ内部の不良、バルブの固着

→ポンプから高圧ホースを外し、ポンプを回転させた状態で、ポンプの吸水口に水道ホースを押しつけ強制給水する。

→上記で取れない場合はポンプヘッドのバルブ部の六角を外し、バルブにゴミが付着していないか調べ、ポンプ内に残っているゴミ分を水道水で洗い流して下さい。

→プランジャー部のパッキン，バルブが磨耗している場合は交換して下さい。

→長時間の空運転でプランジャーが割れることがあります。確認して下さい。

### 3. 現象

圧力が変動する。

①フィルターの目詰まり

→本体給水口のフィルターにゴミが付着していないか確認，洗浄して下さい。

→自吸式の場合は給水ホース先端のフィルターにゴミが付着していないか確認、洗浄して下さい。

②給水ホースの締め付け不良

→本体とホースをしっかりと接続する。

③ケミカル調整レバーが“+”になっている

→「ケミカルインジェクターの使い方」を参照して下さい。

④ポンプの弁のゴミ引っかかり。

→ポンプから高圧ホースを外し、ポンプを回転させた状態でポンプの吸入口に水道ホースを押し付け強制給水させる。

→上記で取れない場合はポンプヘッドのバルブ部の六角を外し、バルブにゴミが付着していないかを調べ、ポンプ内に残っているゴミ分を水道水で洗い流す。

#### 4. 現象

初期使用時からポンプに水が入ってこない。

①給水ホースがしっかり締まっていない。給水ホースがポンプ本体にしっかり接続されていないと、シート面から空気を吸ってしまって水が入ってこなくなることがあります。ホース側のネジ部内のパッキンが傷んでいたり無くなっていたりして空気を吸ってしまうこともあります。

②ポンプ内の吸入弁の固着。ポンプ内の吸入弁のシート面は、新品時は鏡面状態になっているため、シート面の固着により水を吸い上げない場合があります。解消方法は、ポンプを回した状態で、ポンプの吸水口に水道ホースを当てて勢いよく水を噴射して呼び水をするとシート面が離れ、吸水するようになります。

#### 5. 現象

ポンプからオイルが漏れる。

①締め付け不良。

→ボルト等がしっかりと締まっているか確認する。

②Oリング、パッキンの損傷。

→部品交換。

#### 6. 現象

ポンプから水が漏れる。

①パッキンの磨耗

→高圧、低圧シールの磨耗により水漏れが起こる場合があります。磨耗した部品を交換して下さい。

#### 7. 現象

モーターが回らない。

①配線の接続ミスはありませんか？

→アース線は正しい位置に接続されていますか？配線が外れていませんか？

正しく接続されているか確認して下さい。

②延長コードの線径は合っていますか？

→延長コード使用の場合、電圧降下によりモーターが起動できない場合があります。本機のモーターは定格出力が 3.4kW、定格電流が 12A です。このため、コードは 3.5sq が推奨となります。

③スイッチの接点不良

→スイッチの接点は長時間使用すると磨耗してきます。電源コードを接続していない状態で本体のスイッチを入れ、接点の導通を検査して下さい。

④モーター、ポンプの焼き付け

→部品交換

## 8. 現象

ブレーカーが上がる。

### ①配線の接続ミスはありませんか？

→アース線は正しい位置に接続されていますか？配線が外れていませんか？

正しく接続されているか確認して下さい。

### ②延長コードの線径は合っていますか？

→延長コード使用の場合、電圧降下によりモーターが起動できない場合があります。本機のモーターは定格出力が 3.4kW、定格電流が 12A です。このため、コードは 3.5sq が推奨となります。

### ③スイッチの接点不良

→スイッチの接点は長時間使用すると磨耗してきます。電源コードを接続していない状態で本体のスイッチを入れ、接点の導通を検査してください。

### ④電気系統の漏電

→電源元の漏電ブレーカーが上がる場合、電気系統で漏電を起こしている可能性があります。お買い求めの販売店にご相談ください。

## 9. 現象

オートストップが働かない。

### ①ガン先からの水漏れ

→ガンを閉じても先端から水が漏れていますと、アンローダーが誤作動を起こし、オートストップが働きません。部品交換をして下さい。

### ②アンローダーの異常

→アンローダーの背圧弁やOリングなどが磨耗していると、オートストップが働きません。磨耗した部品を交換してください。

### ③圧力スイッチの異常

→圧力スイッチのピストンのOリングが磨耗していると水漏れを起こし、スイッチが誤作動を起こす可能性があります。磨耗した部品を交換して下さい。

→圧力スイッチのマイクロスイッチが故障している可能性があります。スイッチを交換して下さい。

モーター型洗浄機の使用開始前に必ず下記空欄に必要な事柄を記入してください。  
点検の時に大変役に立ちます。

項目	ご記入欄		
型式	JI-1113M	ご使用開始 年 月 日	
製造番号		ご購入先 (必須) ※必ずご記入ください	TEL ( )
ご購入 年月日			

## アフターサービスについて

### 保証規定

#### 1.保証内容

お買い上げの日から1年の間に正常な使用状態にも関わらず弊社の責任に基づき故障が発生した場合は無償修理させていただきます。

#### 2.適用除外 ●保障期間中でも下記の場合には適用いたしません

- (1) 不当な修理や改善による故障、損傷。
- (2) お買い上げ後の落下などによる故障、損傷。
- (3) 火災、塩害、ガス外、地震、風水害、落雷、異常電圧およびその他の天災地変による故障、損傷。
- (4) 使用・取扱い上の酷使、過失、手入れ不十分および外的損傷による故障、損傷。
- (5) ノズル、摺動部の磨耗およびパッキン等の消耗部品。
- (6) 注意事項および取扱説明書に記載した内容の範囲外の条件で使用した故障および損傷。
- (7) 書類に不当な字句訂正などがあった場合。

#### 3.本書はお買い上げの納品書(納入口が記載されていることを確認)とともに大切に保管してください

### ユーザー登録について

～保証対象の確認および、速やかな保証対応のために、機械購入時にユーザー登録をお願いしています～  
同封の保証書に必要な事項をご記入いただきFAXいただくか、弊社ホームページ経由でも受付をしています。  
ホームページ経由でご登録いただきますと、ご購入いただいた商品のメンテナンス情報、関連する付属品、  
便利なオプション品情報、新商品情報など、定期的に情報配信をさせていただきます。

是非、この機会にご利用くださいますようお願いいたします。

- ・登録場所/精和産業トップページ右側「保証書ユーザー登録」

<https://www.seiwa.com>

ここからも登録できます→



### 修理サービス

修理はお買い上げの販売店又は、弊社最寄りの営業所にご連絡ください。

## SEIWA 精和産業株式会社

浜松配送センター

〒432-8006 静岡県浜松市中央区大久保町1348  
TEL 053(485)6181 FAX 053(485)6180

仙台	981-1105	仙台市太白区西中田6-15-13	TEL 022-241-2145
群馬	371-0854	群馬県前橋市大渡町1-8-6	TEL 027-251-3457
東京	136-0072	江東区大島5-12-7	TEL 03-3638-6911
神奈川	242-0029	大和市上草柳8-28-18	TEL 0462-63-3029
名古屋	453-0839	名古屋市中村区長筈町4-15	TEL 052-412-1717
大阪	547-0001	大阪市平野区加美北8-1-18	TEL 06-6794-3511
岡山	710-0841	倉敷市堀南606-1	TEL 086-426-5200
福岡	816-0912	大野城市御笠川1-8-7	TEL 092-504-7213
エス・ティール	891-0175	鹿児島市桜ヶ丘2-22-10	TEL 0992-75-7550
塗機商事	903-0124	中頭郡西原町呉屋108-6	TEL 0989-43-4495